

令和7年度 平泉寺地区市長と語る会 議事要旨

- 日 時 令和7年8月8日（金）午後7時00分～午後9時00分
■場 所 平泉寺まちづくり会館
■出席者 19名
■意見交換会でのテーマ：少子高齢化について

1. 市政報告会

2. 意見交換会

1) 集落への支援とまちづくり会館の機能強化について

質問	平泉寺地区は限界集落になり、地域として行事などの活動がこれまで通りできなくなっている。平泉寺白山神社の清掃を年2回行っているが、村人が高齢化、戸数自体も減少し、活動が大きな負担になってきている。他の地域にも伝統行事はあると思うが、その継承が非常に困難な状況になっている中で、行政はどのようにサポートしていくのか。地元から意見聴取するなど、支援のあり方を検討していかなければ村の存続は非常に危うい状況にあると思う。 公民館からまちづくり会館へ移行したことにより、地域の拠点として地域の課題を吸い上げ本庁につなぎ、福祉だけではなく行政本体の役割もまちづくり会館に付加し、機能を強化していくべきだと思う。今後の行政の展開やあり方に関して検討していただきたい。
事前質問	少子高齢化に伴う地区の組織や伝統行事の存続について、市の事業や支援について聞きたい。
回答	昨年度実施した自治会活動に関するアンケート調査では、区民の減少による人材不足や役員の業務負担が課題であることが浮き彫りになっている。このことから、現在市では、区の合併を進めるのではなく、区同士の助け合いの仕組みづくりの案として、複数の区を担う行政協力員を配置し、適正な人口規模に再編し他の区との協力体制を作ること検討している。これにより、区長の負担軽減や役員が回ってくる頻度が少なくなる等が期待できるのではと考えている。ただ、各区での話し合いが必要で簡単にできるものではないと思っているので、希望する区から協議していきたい。 まちづくり会館の機能強化に関しては、現在、常勤職員に加えて、地域担当職員を3名配置して情報提供や相談支援等のサポート体制を拡充している。にこにこ地域づくり交付金の使途に関してもご相談いただきたい。まずはまちづくり会館へご相談いただき、内容によっては地域担当職員がサポートをさせていただく。伝統行事に関する助成制度はあるが、一番使いやすいのはにこにこ地域づくり交付金だと思う。ぜひ有効にご活用いただきたい。すぐに解決する問題ではないが、行政が地域と一緒に考えていきたい。

2) 人口減少に対する市の方向性について

質問	地区で若い人に残ってもらうにはどうしたらよいのか。若い人の意見を聞く場を設けてほしい。若い人からすると、今後市の人口が減少し地域がどうなるのかという心配も大きいと思う。そういった点で、市長の方から今後の市の方向性について具体的に説明してほしい。
回答	市では現在、応援金115（いいこ）や115プロジェクト等で人口減少に歯止めをかけたいと思っている。平成の大合併の際には大野市との合併も検討されたが、現状では短期的に合併を進めることは考えていない。大野市と合わせても人口は5万ほどしかいない。もし合併するとしたらもっと広いエリアでの検討が必要。 勝山市という行政体としては一定期間継続する中で、どのように活力を維持するのかという課題もある。それに関しては、北陸新幹線の敦賀までの開業や、中部縦貫自動車道が順調に延伸している中で、恐竜博物館の人气で勝山市への観光客が増加している。リゾナーレ福井の建設の他、民泊などの宿泊施設も増えている。観光や産業振興に関しては、行政が主導するのではなく、勝山観光まちづくり会社や商工会議所、（一社）KICS等、民間の活力を活かしたまちづくりが進められており、若い世代の活躍も目立つ。今後も交流人口を増やし、農業・福祉・教育など多方面に目を配りながら地域の活力を維持していきたい。

3) 農業の支援と地域の発展について

質問	「地域の発展なくして国の発展はない」と同じように「郡部の発展なくして市の発展はない」と言えると思う。先日、平泉寺の各種団体の代表が集まって話をした中で、平泉寺が一番がんばっている産業はやはり農業だという話が出た。ただ、5年先、農業をやっていく者がいないという話もあった。農地が荒れたら確実に村も衰退する。農業政策が、郡部の発展の大きな要因になると思う。若い者が帰ってこないとか農業だけではご飯を食べていけないとか、国全体の問題はあるが、やはりこの奥越、平泉寺の米というのは十分ブランドとしても価値があるという信念を持って、平泉寺の方は一生懸命農業に携わっていると思う。あわせて郡部の発展に対して市はどのように考えているのか。
回答	市としては、中山間地域の米作りを何としても維持していきたいと思っている。国の政策に左右されるところはあるが、米作りについては、単なる産業ではなく地域の骨格だと思っているので、今後も継続して支援に取り組んでいきたい。 地域全体の活力については、維持できるものは維持しながら、地域で暮らし続けるためのサポートは今後もやっていきたい。高齢化が進む中、地域の農業をしっかりサポートし、米作りができるということが、農村の維持、それが集落の維持、コミュニティの維持につながっていると思うので、しっかりと守っていきたい。その上で、地域の活力を維持するためには、地域の皆様としっかり協議していきたい。平泉寺に関しては、平泉寺白山神社が非常に大切な資源だと思っており、平泉寺白山神社の維持が平泉寺地区にとっての活力や伝統や文化、生きがいだと思っているので、今後もサポートしていきたい。

4) 人口減少の中での事業の集約について

質問	地区は行事を維持する努力をしているが、平泉寺が当初から半分の人口になっているのだから、今まで通りのことをやろうと考えず、やめることも考えるべきだと思う。発展は大事だが、やることを絞って方向性を決めていくことはしないといけない。除雪にしても今年からこの路線はやめようという話が出る。予算もないのに今まで通り全部やろうと考えず、どんどん切っていくべきだと思う。予算も人も減っている中で、役所にあれもこれもお願いするのは限界がある。視点を絞って考えた方が良い。例えば、人手不足で言うと研修生を雇うという話もある。彼らに対して仕事の斡旋や住まいや生活の補助をすれば、平泉寺でも勝山でも人は来る。これが現実味があるのか分からないが、方法は考えた方が良いと思う。
回答	集約が必要だということは理解できる。多くの区では既に切るものは切っていると思う。例えば、青年団はほとんどないし、婦人会のような活動もなくなっている。火の用心の見回りを子ども会でやっているような地区もない。自然とそういうのはなくなっていった。そういった中で、市は今後、地域の文化や伝統を維持するためのサポートをしていきたい。先ほどもあったが、行政協力員の制度は考える必要があると思う。例えば、近隣の複数区を一人の区長が兼ねるなど。こういった区が増えるような気がしている。そうしたことも視野に入れながら協議させていただきたい。発展ではないが、維持していくことを一生懸命させていただきたい。

5) 法面の草刈りについて

質問	岩ヶ野の農業をどのように守っていくかということに非常に悩んでいる。一番大変なのは草刈りで、今年シルバー人材センターへお願いに行ったら、シルバー人材センターでも高齢化が進んでおり、草刈りの依頼は受けられないと言われた。ただ、草刈りをやらないとすぐに荒れ地になってしまうので、今のところは区の皆さんに年に3回やってもらっている。数年前に農家法人ができたので、個人で機械を持つ必要はないが、高齢化によってオペレーターもいなくなる。高齢化が進んでいくと体力や体調のこともあり不安。農業で成功したいというより、小さい集落にいて自分たちが頑張らない限り、農業を守れないので、何とかして守っていききたいと思っている。
回答	草刈りに関して、本当に課題が大きいというのはよく理解できる。農林総合事務所とも協議しながら共通課題として認識している。市もそういったことにお応えできるようなことも考えていきたい。農村の維持をするには、米作りを維持するのが必須条件だと思っているので、一緒に頑張っていきたい。

6) 農地の荒廃について

質問	赤尾の田んぼが相続放棄されて、今2年ほど法面の草刈りが放置され荒れ地になっている。現在、田んぼは相続清算人の持ち物になっているので、村で勝手に草を刈ることもできない。田んぼだけでも荒れ地にならないようにしないといけないが、悩んでいるところ。荒廃する前の手立てが必要だと思っている。
回答	自分の家の隣が、田んぼも全部手放して引っ越してしまった家が1軒あったが、かなり悩んで敷地や田んぼを買い取った。敷地の後は防草シートを敷いたり、荒れ地にしないように農業法人に預けてやっていくしかないと思っている。他にもそういった家がいっぱいあるので、田んぼを誰かに売ってくれとか、放置しないでほしいと自分は口を酸っぱくして言うしかない。周りの田んぼもだめになってしまうので、ぜひ集落で買い取ってやってほしい。 最近、村の方でも簡易宿泊をやるところが増えている。横倉や深谷にも実はお客さんが来ている。簡易宿泊施設をやりたい人はたくさんいるし、都会に出た人で紹介してほしいという人もいる。移住者の方で家を探している人がいる。ややこしい物件でなければ赤尾だったら十分売れると思うのでご相談いただきたい。
質問	田んぼが劣化していくのは非常に辛い。放置されて荒れた土地が、中山間の一番上の方から徐々に侵食していったら広がっていく形は、見るに堪えない現状ではある。平泉寺のおいしい米を少しでも維持するために、できるだけ荒れ地がないようにしっかり目を向けて対応をしていきたいと思っている。先ほどもあったが、いろんな行事に対して人が半分になったのであればパワーも半分という形は議論をしているところ。全部同じようにやろうというのは無理なので、必要なものは守り、減らせるもの選別をしていく時期に入っているのだと思う。市からの応援という話も出たが、まずは地元の人間が精一杯やって、できない部分を行政に力を借りたい。
回答	農業については、必ずしも産業政策だけではなく、環境や地域づくりや安全安心の面も含めて農業支援をやっていききたい。平泉寺町というエリアに対して、このまちづくり会館をどうするか、充実することはやっていききたい。それぞれの集落については、皆さんの方でいろんなことを考えていただき、こういったサポートができるのか教えていただきたい。地区の伝統行事等、地区の中に入っていくことは難しいと思っているので、町全体について地域の方は地域のあり方について一緒に話をさせていただけるとありがたい。

7) その他意見

質問	自分は勝山に暮らしているが福井に勤めている。そういう人間も山間地にいる。昨年の燃料助成は非常に助かった。
----	---

回答

昔のように、農業してそこで暮らして林業してそこで結婚してそこで生まれて生きて死んでいく、という構図はどんどん変化して、今はそれにこだわることはないと思う。勝山で育って、福井で勤めて暮らして、また勝山に戻ってくることもあるし、いろんな方にまちの活力に携わっていただきたい。

8) 結婚支援について

質問

結婚していない人が最近多いという印象がある。市としても婚活等の場をもっと設けていただくと良いと思った。

回答

結婚支援の事業も行っている。今までのような結婚相談員の方だけではなく、若い方や民間のサポートを借りたり、インターネットを使ったりと、様々な方法で結婚支援も頑張りたい。意図的に結婚をしない人も増えているが、結婚したくても忙しくて機会のない方にはしっかりサポートしていきたい。

9) 子ども・子育て施策について

質問

子どもに対する支援事業のことを教えていただきたい。勝山に住むと他の地域と比べてどこが良いのか。

回答

一つは保育料の完全無償化。福井県は昨年の9月から2人目以降は無償ということを開始しているが、勝山市は昨年の秋から一人目から無償化している。所得制限も人数制限も設けていない。もう一つは、放課後児童教室の利用料の無料化。全国的にいうと、例えば利用が4年生以下という制限があったり、抽選があったり、利用料は有料でというのが主流。勝山市は1年生から6年生まで全員を対象にして、全ての小学校区で無料。さらに、不妊症治療の無償化がある。不妊治療には高額の治療費がかかるが、勝山市では年齢制限、年間回数制限を全て撤廃して、保険と国の補助と市の補助で無償で受けられるような体制をとっている。そして、応援金115（いいこ）という、生まれた時に1万円、毎年6万円を0歳から18歳までお渡しするという制度をやっている。他にもあるが、勝山市独自というと、今申し上げたこと。そういう意味では、県下のみならず全国でもかなり突出した子育て支援策、あるいは子どもに対する支援策だと思っている。

質問

今聞いたことは自分の頭になかった。もっと大々的にPRしてはどうか。

回答

今月の広報に応援金115（いいこ）が掲載される。おっしゃるとおり今あまり知られていないので、しっかりと知っていただいて、市外にいる子どもさんたちに伝えてもらう。東京から帰ってくるか迷ったときには実は、とっていただくようなパンフレット作りやお願いづくりをしたいということで、市役所全体で115プロジェクトをやっている。もう少しお時間をいただきたい。